

【目的】

本事業は、長岡市総合計画に示されている寺泊地域の将来像「“海の寺泊”ブランドの確立によって、人と自然と歴史が融合した活力ある地域」の実現に向け、寺泊港を中心とした港湾区域の賑わいの創出や、周辺の海水浴場、水族博物館、魚の市場通り、史跡、公園、文化財などの地域資源や旧支所跡地、緑地帯などの遊休土地を活かした住民主体のまちづくり活動を展開するための母体づくりを目的とする。

具代的には・・・

- ① ワークショップを通じた人材育成とまちづくりの母体づくり
- ② ワークショップを通じて夢を描く
- ③ ワークシップメンバーを中心としたまちづくりの実践活動 など



「寺泊港周辺整備のためのワークショップの報告と方向性」

【ワークショップとは何か】

様々な人が集まり、集まった人たちが共同作業をして、創造性を高め、具体的な成果を生み出す。

※ ワークショップで期待されることは、

- ① 「人づくり」 ② 「環境づくり」 ③ 「地域社会づくり」

○ 背景

今、寺泊のまちづくりに求められているのは、各活動や人の情報を集積して発信する機能、活動や人をネットワークさせる機能である。また、住民と行政が対等な立場で協力しながらも、住民が中心となったまちづくりを進める必要があることから、それらの課題を話し合う住民主体のワークショップを立ち上げた。

○ ワークショップの進め方

- ① 行政主導では進めない。専門スタッフ〔地域交流センター〕のサポートにより、ワークショップの委員が主体となって検討や活動を行う。
- ② 委員自らが楽しむといったスタンスを持って、多面的な受信や発想を生み出す。
- ③ 客観的な意見よりも、自分はこう思うという主観的な意見をぶつけ合う。
- ④ みんなの意見により、具体的な取り組みとして実践していく。

【委託先・委員・事業期間】

委託先:NPO法人地域交流センター

委員…9名〔P61のとおり〕

平成20年度から平成22年度までの3年間

【主な取り組み事業】

- 平成20年度・・・「寺泊港周辺整備のための基礎調査業務」
 - ・ 地域資源の洗い出し
 - ・ 類似港湾の整備状況調査
 - ・ 住民アンケート調査
 - ・ 住民参加によるワークショップの立ち上げ

※2回のワークショップでは、「寺泊地域に足りないもの」「住民主体のまちづくりの必要性」「海も大事だがもっと良い観光資源がある」といった課題を導き出すことができた。

○ 平成21年度

- ・ ワークショップの開催〔年3回程度〕
- ・ ワークショップだよりの発行〔年3回程度〕
- ・ 現地調査(地域委員会委員や各種団体との意見交換など)
- ・ 住民アンケート結果のクロス集計などの分析
- ・ その他(先進地視察など)

○ 平成22年度

- ・ 試行事業の実施
- ・ 報告書のとりまとめ

【取り組みの方向】

※住民が主体となったまちづくりを実現していくためには・・・

ワークショップ委員による検討や活動実践と併せて、地域委員会での議論、その他各種団体との意見交換や連携・協力が重要であると考えます。

地域資源を活かした住民主体のまちづくり活動は、さまざまな取り組みが考えられますが、次のような視点も今後、意見交換していければと考えています。

○ キーワード

- 「北の鎌倉」…古い歴史と美しい自然、多くの寺院
- 「潮風を背に受けたまちづくり」…海と日本一の夕日、てらどまり港の活用
- 「癒し」「健康」…人や物が集まり、地域全体が元気になること
- 「安全・安心」…住民の願い
- 「賑わい」…新たな就労の場が生まれることを期待

○ 具体例

- ・ お寺や史跡を巡る観光の受け皿の整備…住民が案内人、お寺でシルバーサロンを運営
- ・ ロマンズ街道〔散歩道〕の整備…観光客だけではなく地域住民も楽しむなど、住民が主体となった活動を展開と併せて、そのまちづくりに必要な施設整備等については、「街なみ環境整備事業」や「まちづくり交付金」などの補助制度を活用していくことも考えられます。